

「めいとく幼稚園ってどんなところ？」

～めいとく幼稚園の10の魅力～



認定こども園
千葉明德短期大学
附属幼稚園

2020年8月発行

めいとく幼稚園の

魅力その1 広大な遊び場スペース

- ・2000㎡の天然芝の園庭。(25mプール6.6個分)
- ・2600㎡の築山・堀・畑・田んぼ・大型固定遊具を有するチャレンジエリア。
- ・1300㎡の樹木あふれる松の森。
- ・年少児が安心して遊べる250㎡の年少エリア。

全園児300名近い子どもたちが一斉に園庭で遊んでも窮屈さを感じさせない、広大な遊び場スペースは、めいとく幼稚園の魅力の一つです。



魅力その2 豊かな自然環境

広いだけではなく、たくさん子ども達のそれぞれの個性や興味に対応できる、豊かな自然環境も魅力の一つです。

食べられる果樹は、みかん、さくらんぼ、かき、ざくろ、うめなど、14種以上。

どんぐりは国内に22種分布しているうち8種。

樹木の種類は75種以上。

園庭内で子ども手の届くところにある樹木は500本以上。

豊かな自然環境の中には、テントウムシやダンゴムシ、バッタやカマキリ、とんぼ、タマシ、アゲハチョウ等がたくさん集まっています。



昨今、環境が見直され、幼稚園教育要領の前文に「環境」の文字が加わり、「幼稚園施設整備指針」が策定されるなどしています。

豊かな自然に触れ、子ども自身が主体的に考え、思いっきり満足するまで遊ぶ時間を保証しています。

魅力その3 創立53年の確かな歴史

めいとく幼稚園は、昭和42年設置許可の創立53年を迎えています。2020年3月には、創立以来5000人目の卒園生を送り出しました。

この長い歴史の中で、園児だった子が親世代になり、そのお子様を通わせていただいている方が多くいらっしゃいます。

また、園児だった子が成長して、中学校の職場体験として戻ってきたり、めいとく幼稚園の職員になった方もいます。

さらに、一度退職した職員も、その後さまざまな人生経験を重ね、再びめいとく幼稚園の職員として戻ってくることもあります。

愛され続けることには、理由があります。

ここからは、そんな歴史ある【ピワの木の話】。

20数年前、お弁当のデザートに大きなピワを持ってきた、年長組の女の子がいました。「先生、この種うめてみたい」というその子のひらめきを、植木鉢に植えてみたところ、ベルランダである日、芽が出て大喜び！みんなで毎日水をあげました。3月になり年長の女の子は卒園していましたが、その後も担任がベルランダで数年育てました。やがて、その担任も幼稚園を去ることになり、ピワの苗木を裏山に植樹していきました。

それから20年。その先生が再び園に戻ってくることになりました。植えたピワは、5m以上に大きく生長していました。そして今、その先生は、子どもたちとそのピワを収穫して、実りを楽しむようになっています。

【卒園記念樹】

5年前からは、毎年、卒園記念樹として、木々を植樹させていただいております。そして、子どもたちの思いは、また次世代へとつながっていているところです。



魅力その4 興味関心を広げる書籍の数々

子どもたちは、豊かな自然環境のもと、時間と空間と仲間を
保証され、自分の満足のいくまで遊びに熱中していきます。

そんな時間を過ごす子どもたちは、次第に集中力も自然と
身についていきます。また、好きなことに熱中する中で、好きな
ことに対する探求心をもつようになります。

そんな時に、興味関心を広げる「めいとくの図書」の数々が、
子どもの育ちに役立っています。

物語の本から科学の本まで、興味関心を広げ語彙を身につけ
られる絵本は、**2700冊以上**。

興味関心を深めてくれる図鑑は、
100冊以上。

季節の行事についてや物語の
紙芝居は、**350冊以上**。



子どもたちの自主性・主体性を大切にしている、歴史ある
めいとく幼稚園だからこそその選り抜かれた蔵書は、いつの時代も
子どもたちに愛され、人気の本は、何度も読まれることで、少し
ボロボロになりながらも、子どもの成長を後押ししてくれて
います。

魅力その5 子どもも保護者も保育者も”園 JOY”

園 JOYとは、Enjoyの意味。

子どもも保護者も保育者も、みんなが共にかかわり、楽しめる幼稚園。そんな思いのもと、休日に集まって活動しているのが「休日園 JOY」です。

保護者と保育者が共に協力しながら、園の遊具を作ったり、一緒に遊んだり。

そんな親の姿を見ながら手伝い・応援したり、期待しながら楽しむ子どもたち。



そして、さらなる特徴は、平日に開催している「平日園 JOY」。

お父さんなら、平日、いつ園に来てもらっても OK。お子さんのクラスと一緒に入り、一緒に遊び、一緒にご飯を食べ、子どもの育ちの一番近い所で、子どもと楽しんでもらっています。

参観日にしか、クラスに入れない園ではありません。隠すことのない保育をしているからこそ、子どもの日々の成長を間近で見てもらいたいという思いです。

魅力その6 子ども自らが考えて行動する力が育つ

明德の建学の精神は、「明德を輝かせること」。

明德とは、その子が生まれながらにして持っている才能のこと。これを輝かせる・引き伸ばすことを、大きな目標としているのが、千葉明德学園です。

そんな幼稚園で育つ子どもたちは、自分の好きなこと・得意なこと、に没頭しながら、自ら考える力が育まれていきます。

自分の好きなことで自信をもって出来ることを、友だちに教えたり、友だちと協同したりする中で、子ども自らが考えて行動する力をはじめとした、様々な力が育っていきます。

幼児期だからこそ、“いやいや”ではなく、その子の好きなこと、得意なことに十分な時間と空間と仲間を保障したい。めいとく幼稚園は建学以来、このような考え・目標のもと、保育を行ってきています。

魅力その7 敷地内に畑と田んぼがある

作物を育てるのに、苗植えと収穫しかしない。この体験しかできない。しかし、これでは、食の関心は広げられても、作物を育てることで得られる体験が限定的でした。

そこで、めいとう幼稚園では、数年前より園内に畑と田んぼを作りました。

園の敷地内に畑や田んぼがあると、どうなるのでしょうか？

子ども自ら、遊びの前に水やりをしたり、遊びながら友だちと作物の様子を見に行ったりという姿が、日課となっていきます。

世話をしないと、枯れてしまったり雑草が生い茂ってしまったりすることに気付けることが、作物を幼稚園で育てる上で大きな意味をもちます。

そこに気付けたとき、子どもたちは、幼稚園という仲間がいる環境の中で、ただの作物の世話が、友だちとの「協同」や「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」の力を育てていく生きた教材になっていくのです。



魅力その8 短大附属幼稚園として

短大の先生と連携し、研究・研修を積み、より良い保育を目指して取り組んでおります。

【研修・研究について】

2019年には、「国際校庭園庭連合支部設立記念大会」に、当園教諭がパネリストとして招かれ、園庭環境についての取り組みを紹介してきました。

また、「第10回幼児教育実践学会」におきましても、短大の先生と共に、“園庭改善によってみえてきたもの”というテーマのもと、7年間当園で取り組んだ園庭環境の成果と課題を発表いたしました。

【あそぼうカー】担当の先生より

保護者の方々、こんにちは。短大の深谷と古賀です。本年度はこの二人で「あそぼうカー」のプロジェクトを担当します。

皆様の中でこのプロジェクトをご存知の方もいると思いますが、初めての方に紹介させていただくと、短大の教員が、時には学生を交えて、幼稚園・保育園の子どもたちの遊びの中に参加する企画です。以前に、例えば大量の土粘土を提供し、定期的に、あるいは数回にわたって子どもたちと粘土遊びを楽しんでいたりして、通常の保育時間においてなかなか体験できない遊びをしておりました。

本学の独自の取り組みで、全国的に見て非常にめずらしい取り組みだと思います。

「あそぼうカー」のメニューは原則として素材遊びに限っております。そして、現に今年度は新しい取り組みとして、素材遊びではなく、午後の保育時間に短大教員の私たちが参加し、周囲の自然が提供してくれる遊びを子どもたちと楽しみたい。室内で発見することのできない何かを見つけない。自然と親しくなりたい方針です。『センス・オブ・ワンダー』の著者、世界的に著名な生物学者であるレイチェル・カーソンのような規模で自然環境と関わるのが難しいですが、気持ちとしてそれに近いような感覚で、明徳の自然環境と関わる体験を子どもたちと一緒に楽しみたいと存じます。

諸都合により毎日毎週そのような時間の過ごし方は無理ですが、せめて月一回お出かけし、2時から4時半まで約2時間半、身近な自然環境の中で探検者になったつもりで過ごしていきたいと思えます。取り組みへのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

(深谷ベルタ、古賀琢也)



魅力その9 日本の文化：季節の行事にふれる

日本には四季があり、古くから季節を細かく分け、節目を大事に過ぎしてきました。

日本の生活に根付いた季節の行事は、年中行事として脈々と受け継がれ、現代でもその姿を残していますが、少子核家族化の時代の中、少しずつ家庭で行われてくることも減ってきています。

めいとく幼稚園では、そうした日本の伝統行事・文化を、身近に感じ、親しみをもち、季節を感じる事が出来るようにとの願いをもって、実施しております。

子どもの日のお祝い、七夕、十五夜、餅つき、
新年の集い、正月遊び、節分、ひな祭りなど。

また、年中行事を保育に取り入れることで、子どもたちは日本の伝統や文化に触れることができるだけでなく、感受性を豊かにし、道徳心や他者との付き合い方を含めた作法を学ぶとともに、生活に必要な力を学ぶことができると考え、行っております。



魅力その10 子どもが輝けるサンマ

めいとく幼稚園のサンマとは、魚ではなく、三つの間のこと。

それは、時間と空間と仲間です。

これが、めいとく幼稚園には十分に保証されています。

だからこそ、明德(→その子が生まれながらにして持っている才能のこと)が輝きます。

めいとく幼稚園には、

- ・自分の満足のいくまで遊びに熱中できる、時間があります。
- ・子ども達それぞれの個性や興味に対応できる、豊かな自然環境、空間があります。
- ・一緒に遊び協同する仲間がいます。

子どもが自ら考え、主体性をもって育っていく上で大切なサンマの言われてみれば、この三つの間の大切な事だとは分かってはいると思いますが、少子核家族化の昨今、ご家庭や地域内では、意識しないと持ちにくくなってきていると思いませんか？

ぜひ、ここは、めいとく幼稚園のサンマを、活用してください。